

# うらら池でのオオオニバス類の栽培記録

藤井智展

## はじめに

オオオニバス類は直径 1.5 m にもなる巨大な葉を浮かべる熱帯スイレン温室の目玉植物である。温室内では *Victoria amazonica*、*V. cruziana* の 2 種の原種とその交配種である *V. 'Longwood Hybrid'* を展示している。

過去に行ったうらら池でのオオオニバス類の栽培では温室で定植する 5 月ごろに、水の流入口のある池北側に設置し、失敗したと聞いている。

今年度は、オオオニバス類をうらら池で栽培し、一定以上の大きさの葉を広げ、鑑賞性が得られるか、試乗会イベントに向け、葉を育てるために摘花することから採種が行えない夏季の間に採種ができるかを試すため、うらら池（園内のため池）での栽培を実施したのでここに記す。

## うらら池での栽培記録

令和 3 年 6 月 22 日～11 月 23 日までうらら池で原種 2 種と交配種を栽培した。7 月中旬から開花が始まり、枯死する直前の 11 月 10 日ごろまで開花が継続した。開花後は結実し、種子を取ることができた。11 月の中旬ごろ水温が 15℃ 以下になると急激に根や葉が傷み枯死した。

**6 月 22 日** 気温 29.8℃（最高）、20.8℃（最低）（以下略）、水温 22℃

熱帯スイレン温室下池にて大鉢で管理していた *V. amazonica* と *V. cruziana* の 2 月に播種した株（写真 1）をトロ船（幅 590 × 長 870 × 高 210 mm）に移植し、うらら池南東部の入り江へ移動した。



写真 1 *V. amazonica*（手前）と *V. cruziana*（奥）

**7 月 1 日** 気温 30.9℃、24.9℃、水温 25℃

下池で直径 30 cm、13L のバケツ植えて管理していた *V. cruziana* 3 株、*V. 'Longwood Hybrid'* 4 株をうらら池へ移動した。

**7 月 8 日** 気温 28℃、23.2℃、水温 20℃

7 月 6 日、7 日にかけて降った大雨によりうらら池の水位が上昇（約 20 cm）した。葉がすべて水没した株（写真 2）もあり、また浮葉が引き寄せられ葉に傷や破れが生じた。うらら池に流入した雨水のため、水温も下がっていた。



写真 2 水没したオオオニバス

**7 月 13 日** 気温 32.2℃、23.1℃、水温 25℃

*V. amazonica* 初開花（2 日目）を確認（写真 3）



写真 3 野外で初開花（円内中央部に 2 日目の花が見られる）

**7 月 28 日** 気温 34.6℃、25.8℃、水温 25℃

曇天が続き日照不足と肥料切れで *V. amazonica* が小さくなった（写真 4）。まるやま 3 号（16 g/個、N3.P6.K4）をトロ船植え（20 個）、バケツ植え（6 個）に追肥した。



写真4 追肥前 肥料切れで株が小さくなった。

8月3日 気温 35.3℃、26.1℃、水温 27℃

*V. cruziana*、*V. 'Longwood Hybrid'* が続々と開花 (写真5)。

バケツ植えの *V. cruziana* 葉の最大径約 1 m、バケツ植えの *V. 'Longwood Hybrid'* 葉の最大径約 1.2 m であった。

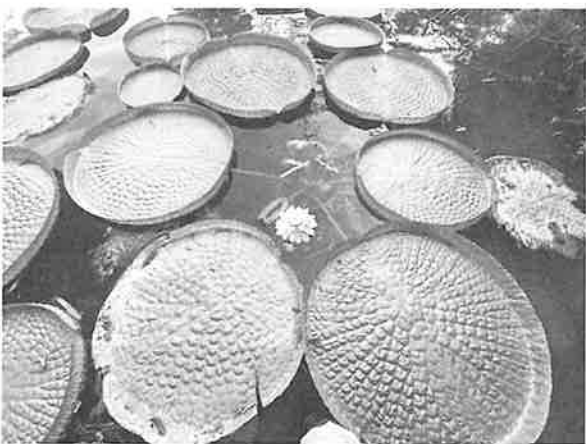


写真5 バケツ植えの *V. cruziana* 開花、株径約 4 m、葉の直径約 1 m

8月26日 気温 31.6℃、26.3℃、水温 28℃

まるやま3号 (16 g/個) をトロ船植え (20個)、バケツ植え (6個) を追肥した。

*Longwood Hybrid* 作成のための交配は、1日目の花の開花時間があまりにも遅く (21~22時頃)、危険なため夜間に池に入ることができず失敗に終わった。また、原種2種と交配種を近くで栽培していたため、虫による花粉媒介で自然交雑が起きた可能性があった。そのため、ついていた種子は成熟前に切除した。

内部では自家受粉か他家受粉かは不明であるが自然に受粉し、種子をつけていた。予期せぬ交配が起こらないよう、開花前からネットを被

せるなどの管理を行えば自家受粉での採種は容易に可能であると考えられる。

*V. 'Longwood Hybrid'* の交配は、1日目の花が受粉可能な夜間に作業する必要があるため、安全性の確保のため2人以上で交配作業を行い、昆虫の侵入対策にネット等の被覆を行う必要があると考えられ少々困難である。

9月11日 気温 28.9℃、24.1℃、水温 25℃

気温が下がり葉の大きさが小さくなり始めた。最大径 90 cm 程度。花は継続して開花。

9月21日 気温 30.7℃、20.2℃、水温 23℃

9月中旬になり、週の平均気温、水温共に下がってきたが、浮葉が小さくなりながらも開花は継続している。



写真6 浮葉が小さくなった、浮葉には落ち葉が貯まっている。(9/21)

9月29日 気温 30℃、22.3℃、水温 23℃

9月下旬になり、さらに週の平均気温、水温共に下がってきたが、日の入る角度が変わり、木の陰となる時間が短くなることで、入り江部分へ日の入る時間が長くなったことからまだ生長を続けている。

10月7日 気温 29.5℃、21℃、水温 22℃

*V. amazonica* は直径 1 m 以上の葉を展開している。*V. cruziana* はかなり小さくなり、直径 40 cm 程度の葉を広げている。(写真7)

これ以上の生長が見込めないため、10月に追肥は行わなかった。

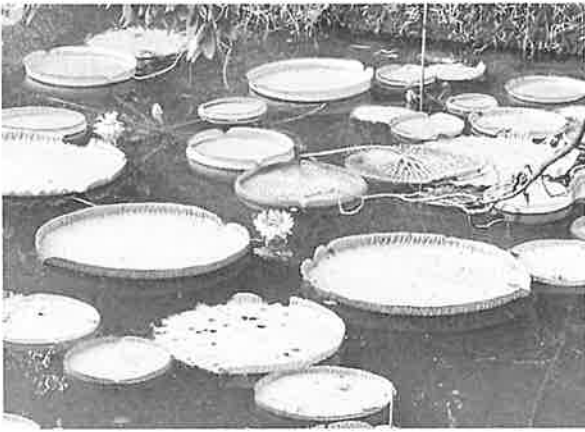


写真7 10月でも次々と開花を続ける



写真9 完全に浮葉が溶解した株

11月5日 気温 22.3℃、10.3℃、水温 16℃

熱帯スイレン温室内の3種と比較して葉がかなり小さくなった。肥料切れと低温による影響であると思われる。

*V. amazonica* 直径 60 cm (80 cm)、*V. cruziana* 直径 30 cm (60 cm)、*V. 'Longwood Hybrid'* 直径 40 cm (100 cm) 程度。( )内は熱帯スイレン温室の3種類の葉の直径。(写真8 画面奥に *V. cruziana*、中央の大きな葉が *V. amazonica*、手前及び右側が *V. 'Longwood Hybrid'*)



写真8 11月頃の開花は途切れがちになる。

11月23日 気温 12℃、7.1℃、水温 10℃

前日に降った雨と低温により葉が溶解した(写真9)ため、引き上げて撤去した。

11月10日ぐらいまで花は上がり続けていた。また、9月に咲いた花には種子ができており、充実間近のものもあったが、株が腐り始めていたため充実不足のものと共に処分した。野外で種子を取るためには8月中に交配を行う必要があることがわかった。

#### うらら池での栽培によるメリット、デメリット

開花が21時頃になることやうらら池南東部の入江への侵入が難しいことから一人で交配のために池に入ることは安全性の確保の面から難しく、夏季の交配は困難であった。しかし、開花した花から花粉を取ることや、セルフでの結実が可能のため、昆虫による予期しない自然交配に気をつければ、夏季に *V. amazonica* や *V. cruziana* の種子を採種することは可能である。

また、場所がレストランに近く、レストランから葉の様子や開花の様子を見ることができるところから、オオオニバス試乗体験会開催のために花を切る夏の間の花の展示としても利用できると感じた。

池の中では、葉がかなりの存在感を示し、1 m 弱の葉でも巨大に感じた。複数の株がひしめき合う姿は来園者に好評であった。しかし、足場の悪い池での作業のため、十分な枯葉処理ができないことが一つの課題であった。

#### 展望

結果として今年度は交配にはつながらなかったが、30 cmのバケツでも1 m 弱の葉を広げ、花を咲かせること、8月中であればセルフでの採種や交配も可能なこと、うらら池にオオオニバスがあることでその巨大な葉に来園者が喜ぶこと、夏の夜間開園で花(2日目)が観察できることが判明した。

6月下旬~7月上旬の水温が20℃を安定して超えるころに、ある程度の大きさまで育てた株を利用して、池南東部の入江部分(流入と反対側)に設置することで、うらら池でも十分にオオオニバスを栽培できた。

夏の夜間開園で花をライトアップして見せることや、植付けの工夫によりさらに巨大な葉を展開させることが期待できるため、来年度も挑戦したいと考えている。